

マイキープラットフォームによる地域活性化方策検討会
(第2回) 議事概要

1 日 時

平成28年3月24日(木) 16:00～18:00

2 場 所

中央合同庁舎2号館7階 省議室

3 出席者

(1) 構成員

太田座長、赤間構成員、市瀬構成員、伊藤構成員、大高構成員、岡田構成員、小尾構成員、高橋構成員、東條構成員、手塚構成員、原田構成員、廣川構成員、吉田構成員

(2) 関係省庁等

向井内閣官房内閣審議官、藪内経済産業省商業課長、福浦地方公共団体情報システム機構情報化支援戦略部長、猿渡大臣官房審議官

4 議事

(1) 構成員からのプレゼンテーション

(2) マイキープラットフォーム構想の概要 ～地域活性化戦略(素案)～

(3) 意見交換

5 議事概要

【太田座長】

- 最近、山梨県大月市の商店街の「Mカード」の導入事例と総務省の実証事業として愛知県豊田市において行われている年金の現況確認の事例を視察してきた。今日もいろいろな事例をご紹介いただき、IDをうまく使うと、商店街、あるいは行政、企業のサービスが変わるという感触を持っている。皆様のご意見もいただきながら、よいサービスができるような工夫を重ねたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

(1) 構成員からのプレゼンテーション

(伊藤構成員より、資料1-1の説明)

【伊藤構成員】

- 平成27年9月にICブレカを導入。これは、今までの磁気カード読み取りの専用端末が非常に高価で経年劣化による諸々の不具合が生じ、機械の修理代が高額といったことからタブレット端末でのポイント事業を開始したもの。市販のタブレット端末にソフトを乗せているので、ほとんど故障がなくなった。端末代金も非常に安く、また様々な付加機能を付け、非常に利用者からも加盟店からも好評を得ている。
- カード自体が、今回、マイナンバーカードに即対応できるようなシステムで、マイナンバーカードのアプリを乗せ、これに読み取り機を接続すればすぐその場でもって対応できるようなシステムである。
- 問題は、マイナンバーカードに対応できる商店街自体が少ないこと。マイナンバーカードを普及させよう、商店街で使えるようにしようということになると、ハード部分をどう商店街で取り入れていただけるかというのが大きなハードルである。

(高橋構成員より、資料1-2の説明)

【高橋構成員】

- 役所の職員としてマイキー活用に期待している4つのことを紹介する。1つは、行政サービスを1枚のカードでできるようにしたいということ、2点目が、健康づくりのきっかけツールとしたいということ、3つ目が、まちの活性化プラットフォームに利用できるということ、最後に、多くの住民にとっては豊島区というエリアを越えて活用できれば便利に使ってもらえるという期待がある。
- 長寿祝いの事例を紹介する。現在、喜寿、米寿、金婚式該当者に1万円の商品券を出している。この回収率が95%ぐらいなので、かなり商店街の活性化につながっているのかなと思いきや、実は大手量販店や池袋の地下街の商店で半数以上を占めてしまい、商店街に落ちてこないといった問題がある。
- 対策案として、紙以外の給付にしたかどうかということで、カードというのも考えられる。本人が所有しているカードに対象額を付与すれば間違いなく本人に使ってもらえる。また、1円から使えるので、おつりが出る仕組みを考える必要がない。個人的には、普段持ち歩くカードに対象額を付与するのが一番いいと考えている。
- 豊島区が平成27年に総務省の実証事業として行った「放送・ID融合サービスプラットフォーム構築」事業、これにチェックインカードという機能を持たせたが、利用者からは受付手続きが省略され非常に好評であった。混み合うイベントなどでは、このチェックイン機能が有効であると思う。

(大高構成員より、資料1-3の説明)

【大高構成員】

- 全庁的なポイント制度を導入するに当たっての主な課題としては、ポイント付与の事業参加インセンティブの有効性、ルールづくり、導入経費等が課題。
- 制度設計に当たっての視点として、事業規模の拡大と統一性、ポイント付与、ポイント交換の簡易性、簡便性、それから、コスト面での優位性という観点があるが、まだまだ検討の俎上にある。
- 今後の取り組みとしては、ポイント制度の共通化、さらに、制度の掘り起こし。それから、対象分野も、ボランティア活動、介護、健康づくり、省エネ活動などの環境分野という形で、さまざまな分野での活用。また、当然、地域産業の活性化、地域の助け合いという形で使っていきたいと思っている。
- マイキープラットフォームそのものは公的個人認証の利用者証明書を活用したプラットフォームになる予定だと伺っている。手持ちのスマホなどに電子証明書の持ち歩き、マイナンバーカードを使ってマイキープラットフォームでひもづけるのだろう。普段持ち歩いているもので活用できると有効性が非常に高まると考えている。
- 施設予約、図書館、病院の診察券との連携が容易にできる形で、カード1枚に集約される利便性を実感できるPRをどのようにしていくかが重要。
- 自治体と商店街に導入する気にさせるために、導入経費、ランニングコストなどといった経費がそれほどかからない、利便性を実感できる、地域活性化に当然効果がある、そして環境が整っている、普及しているものだとPRしていく必要がある。
- マイナンバーカードの多目的利用、ここが非常に鍵となる。それが引いては電子自治体の実現という形につながるだろうと考えている。

(赤間構成員より、資料1-4の説明)

【赤間構成員】

- マイキーのテーブルの後ろに自治体コードを追加するといった工夫があれば、マイナンバーカードの普及とともに、公的カードはマイナンバーカードに置きかえることができるのではないかと考えている。
- 商店街や複合型商業施設などの意見・感想として、カードの集約や新規カードが発行不要になる点などが非常にメリットがあると感じている様子。一方で、マイキープラットフォーム自体にどのようなメリットがあるのか不明、あるいはマイナンバーカードには報道で怖いというイメージがあり、利用客は持ち歩かないのではとの懸念もあった。それから、リーダーライターの設置費用が各店舗の負担増になるのではないかとという意見もあった。
- 商店街からの要望としては、クレジット機能やプリペイド機能を付与すればプラットフォームに登録しやすくなるのではないかとという意見もあった。
- 課題としては、マイキープラットフォームを活用するメリットを具体的にモデルとして商店街に示していく必要がある。まだ検討段階ということで、具体的なメリットを示すことは困難だとは思いますが、イメージでも、メリットが見えてくれば商店街も取り組みやすいと思う。
- 商店街が一番気にしているのが費用。補助金があればハードルが下がって取り組みやすくなると思う。

(原田構成員より、資料1-5の説明)

【原田構成員】

- 事前登録は、本人確認という意味合いが強く、ここをマイキーで代替できれば非常にありがたいと思っている。マイキープラットフォームでノンストップ化が実現すれば、登録申請もノンストップでできるし、全国どこの施設でも予約が可能となり、結果は電子メールで、利用料金はポイントを活用できればお金の面も含めて非常に有効に活用でき、住民利便が大幅に向上、事務作業の手間も含めて大幅に低減が見込まれる。さらに、地域においては観光客の増加、引いては移住促進、地方創生への効果も期待される。
- 現状の公共施設案内予約システムは、既に共同化により18道府県で導入、システム化率は市町村数でいうと50%程度。
- 課題としては、施設利用はやはり住民優先が原則。マイキーに加えて、現住地の市町村コードがあればありがたい。ただ、新規は証明書で代替することも可能と思っている。
- 加えて、従前からの利用者への説明、施設の利用が結構既得権益化している部分もあるので、なかなか難しいところがある。また事務の統一化も課題としてある。
- ただ、乗り越えられる課題とっており、開発ベンダにヒアリングしても、マイキーとの連携について非常に積極的な姿勢を示しているなので、共通化、全国のクラウド化というのは十分可能だし、実現を図っていただければありがたいと考えている。

(2) マイキープラットフォーム構想の概要 ～地域活性化戦略(素案)～

(猿渡総務省大臣官房審議官より、資料2の説明)

【猿渡審議官】

- 素案のイメージは、マイキープラットフォームというのは基本的にはIDを管理するテーブル、ここにあることによって1枚のカードの中にマイキーIDを1つだけつくことで、いろいろなところで使えるというもの。
- 具体的には、実際の店舗等ではマイキーIDを読み取り、プラットフォームに照会し、

従来からあるその店舗のサービスIDを獲得すれば、それから先は既にある店舗の元々あるシステムで動いていくということ。

- クラウド型のデジタルポイントを導入するなどにより、1枚のポイントでさまざまな利用が可能となり、機能も集約化され、顧客分析も可能となる。この場合に、カード発行費用のところはマイナンバーカードも活用することで、商店街の負担も軽減できると考えており、これは中小企業庁とともに頑張ってもらいたい。
- マイナンバーカードの利用等によって低コストでできる。高い提示率になる。それと、個々の自治体でシステムを運営していると住民還元率は低くなってしまいますので、共同化により住民還元率が高まればポイントの原資も増えてくると考える。
- 次に、金融ポイント等の支援ポイント化として、例えば、クレジットカードのポイントだとか、あるいは、航空会社のポイントというものを、消費者がご希望すれば商店街等で使える地方のポイントに変えることはできます。ただ、地方の商店街等のポイントをクレジットカードや航空会社のポイントに変えることはできないと、一方通行で地方の支援に使えるということで、支援ポイントという言い方をしているが、これも相当関心を持っていただくとともに多く、相当の地域への資金流入の拡大が期待できるのではないかと考えている。
- また、公共施設等カードについても、マイナンバーカードの活用等によって公共施設等の利用率の向上も期待できるのではないかと考えている。
- 構想を実現するに当たっては、全国の公共施設の窓口、商店街の店舗にタブレット等の新しいデジタル対応の設備が必要になってくるが、その効果として、活性化の起爆剤と書いているが、自治体ポイントもポイント原資としては相当規模の額があるので、そういうものをもっとPRしていくとか、商店街そのものの生産性も上がって売り上げも増えますという話、あとは、クレジット会社や航空会社などの支援ポイントをもし具体化できれば、相当なものになってくる可能性もある。
- マイキーIDについては、さまざまな案があるが、前はICカードの空きチップのアプリでつくるといった案だったが、今回はもう一つの案ということで、利用者証明用電子証明書の14桁の数字と英字のランダム文字列を使うというもの。マイキープラットフォームをつくった場合に、既に入っているランダム文字列をそのままマイキーIDとして本人が承諾すれば、オンラインでどこでもそこでマイキーIDの登録は終わるといったもの。
- 1つ留意しなくてはならないのは、電子証明書上のランダム文字列をそのまま登録した場合には、5年たったら利用者証明書が更新になるので、更新されたときはもう一回新しいIDを登録する。
- マイキーIDを自身で設定するには、全国1つしかない14桁の半角英文字と数字を設定してもらうことになるが、これはオンライン上では仮登録した上で、市区町村の統合端末のところ、既存の利用者証明書のランダム列にご本人がおつくりになったマイキーID候補を上書きする。
- 自治体の支援ポイントを、市区町村ごとにポイントをまとめたらどうだろうかと考えている。

(藪内経済産業省商業課長より、参考資料の説明)

【藪内課長】

- 地域・まちなか商業活性化支援事業は、商店街が何か新しい先駆的な取り組みをする際に補助を出している。補助率は3分の2。この中で「構造改善」というのがあるが、これは商店街単位で、例えば地方自治体等と連携して共通のポイントカードシステムを導入す

る際に3分の2補助するという制度。残り3分の1を市町村等が補助していただければ、導入の際のコストの面は幾分軽くなると考えている。

- カードシステムについてはいろいろ議論があって、例えば、磁気読み取り式のカードはスキミングとか情報漏えいが結構多いので、ICチップのカードを促進していけないとか、あとは、消費税が上がった際に軽減税率導入ということも言われていて、仮に消費税が上がって軽減税率導入が決まれば、各商店街に複数税率に対応したレジを入れかえてもらう際には、なるべくタブレット型を導入するとか、そういったものも支援対象にしているところ、今回のマイキープラットフォームと一緒に、市町村自治体と商店街のポイントカードと一緒にしたような新しい組み合わせによって、商店街の生産性を上げていくとかいったことにも使えるようになればと思っている。我々のほうでもこういった予算も用意しているので、少し検討いただければと考える次第。

(3) 意見交換

【伊藤構成員】

- 国としてマイナンバーカードを持つことを義務づけさせるような形での施策をとっていただけると、商店街とマイナンバーカードというのは非常に融合性を持つてのではないかなと思っている。

【向井審議官】

- 今後の一番大きなイベントとして、3年後をめどに健康保険証の機能を代替することを考えている。マイキープラットフォームもその一環で、ある程度普及すれば民間からもいろいろなサービスが出てくるし、サービスが出てくるとまた普及もするという相乗効果もある。

【市瀬構成員】

- 自治体の現場ではマイナンバーカードの普及に伴い、窓口での申請方法等について、これまで同様に住民に一から記載させることを基本とした方式の見直しの必要性を感じ始めている。

【廣川構成員】

- 自治体によってサービスに差がついてくる可能性が高い。自治体が利用しやすい基本サービスセットのようなものを用意できると良いのではないかと思う。

【太田座長】

- 自治体クラウドなんか結構広域化もしているの、自治体に閉じずに、広域で共通的に使えるようなパッケージもあり得るかなとは思っている。

【高橋構成員】

- 電子申請は、今、多くの自治体が広域化された電子申請システムを使っている。東京も東京都が構築した電子申請システムを使って、各自治体がそれぞれのメニューをそこに追加していくという形になっている。そういった標準化が今後図られていくものではないかと思う。

【小尾構成員】

- 実際に使う段になったら、ある程度は安全性を担保して使ったほうがいい、今の前提だと、公開鍵証明書のランダム情報だけを読み取るというふうになっているが、例えば J P K I の P I N を入力しない認証というのがあるが、それを使うと。カードが実際にそこにあるという確認ができるので、実際のお金が動くような部分、ポイントより高額なものが動くようなところでも安心して使える。
- 今回出てきた案は、マイキー I D を従来の証明書の中に入っているものをそのまま使うというようなものなので、できるだけ早期に容易に進められるという意味では、二段構えで進めていくのはいい。

【岡田構成員】

- I D の統合とポイントの設計というのは切り離せない。個別に走っている話を統合・集約していこうとする上では、ポイントに関して考え方を整理していく必要が出てくると考えている。
- それから、もう一つ大きなところで、ポイントというのは、ためる楽しみ、使う喜びというのがある。また、ポイントはお金ではない視点というのが大きな役割で、それがある意味、ポイントの魅力というところ。いわゆるエモーショナル・エコノミーを起こす可能性がある。
- そういったいわゆるためる楽しみ、使う喜びといった中で、付与・提供もしくは交換・出口というところで、ポイントをつけてお金として利用する、またお金としてポイントをつけるけれどもお金ではない形で使用する。お金として使用する場合と使用しない場合、このあたりの整理というのが 1 つの論点になってくると思う。

【手塚構成員】

- I D と一言で言っても、その I D がどこまでの属性を指しているのかという、これを明確にしないと、同じ I D という言葉でも、本当にポリシーが一致しているのかというところの問題が本質的にはあると思う。
- 個人番号の場合の I D というのは、基本 4 情報で決まっている I D になるが、商店街でこの人にするといったときに、その商店街の中で買い物をすごくしている人にはあるレベルにするとか、そういうところで属性的なところが付加されていく。

【猿渡審議官】

- 福岡県の柳川市は、市役所も入って市域全体を 1 つの商店街とみなしてポイント制度を入れている。市当局も 1 つのお店という形で、多くのポイント原資も出すけれども、システム運営コストも 1 つのお店として払って、そしていろいろ始めましたという例がある。
- もう一つは、熊本県の玉名市になると、市域全体でのスタンプシステムがあって、今まで行政がかなり盛んに協力していたので、もう既にそのポイントシステムがかなり順調に動いている。その地、その地でのバラエティーのある取り組みが今始まっているので、そういう情報を収集しながら、パターンも分けて進めていきたい。

【伊藤構成員】

- 事務局を持っている商店街というのはほとんどないと思う。こういった事業を行う上において、要は、広域的な外部からの事務局でもいいし、その地域の商工会議所でもいいから、そういったところが地域全体をまとめるようなポイントシステムを構築すれば、それは可能だと思う。

【太田座長】

- 継続するということはそれぞれやっていただく必要がある。専任の方がいないところをどうするかは、ちょっと考えていかななくてはならない。

【大高構成員】

- このマイキープラットフォーム、特に公的個人認証を核とした使い方となると、実はものすごく多様な可能性を秘めていると思う。マイナンバーカードという中に利用者証明書というのがあって、それで認証すると、コンビニ交付を代表するように、マイナンバーカードで証明書が取れると。同じような公的個人認証の民間利用というの、2月には幾つか承認されてという形で使われ始めようとしている。まだまだ実証事業に近いようなレベルだと思いますが、これがマイキープラットフォームとセットになることによって活用の道がもっといっぱいあるのかなと思っている。このマイキープラットフォームの利活用範囲をどのように考えているのか。

【向井審議官】

- 既に総務省のほうで、個人認証のプラットフォーム事業者の認可をやって、実はもう既に需要が民間に多くあり、おそらく、一、二年のうちに何社も認可することになるのではないかと。
- 一方で、マイキープラットフォームを使って地域振興というのも必要ですが、民業圧迫と言われてもまずいので、その辺はよく考えてやる必要があるのかなということ、それも多分検討課題になると思う。

以上